

## Max Classroom.net

## 入試問題アプローチ 2017

明治大学 商  
(試験時間 80 分)

## A 入試概況

2017 年度入試 方式別の募集人数と倍率

	一般入試 個別		一般入試 全学部		センター	
	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率
商	450	<b>6.7</b>	60	<b>7.2</b>	115	<b>4.6</b>

学部入試： 過去 3 年間の受験者数、合格者数、倍率

		2017 年度入試			2016 年度入試			2015 年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
商	一般個別	7,483	1,121	<b>6.7</b>	6,848	1351	<b>4.3</b>	6,338	1481	<b>4.3</b>
	全学部	1,797	249	<b>7.2</b>	1,729	249	<b>6.9</b>	1,917	247	<b>7.8</b>
	セ (3 科)	1,219	181	<b>6.7</b>	1,174	181	<b>6.5</b>	1,814	166	<b>10.9</b>
	セ (4 科)	650	200	<b>3.3</b>	636	196	<b>3.2</b>	927	195	<b>4.8</b>
	セ (6 科)	1,089	268	<b>4.1</b>	164	67	<b>2.4</b>	307	83	<b>3.7</b>
	セ (後期)	200	80	<b>2.5</b>						

過去 2 年間の入試方式別の偏差値

	2017 年度				2016 年度			
	一般 個別	一般 英語	一般 全学部	センタ ー	一般 個別	一般 英語	一般 全学部	センタ ー
商	65.7		68.4	70.6	65.7		67.2	69.3

入学定員充足率の厳格化に伴い、一般個別入試は受験者増に対して合格者を絞り、倍率が高くなっている。ただし、2016 年度、2017 年度の合格者偏差値に差異は見られず、難易度は保持されている。全学部方式においては、受験者は例年並みと言ってよいが合格者偏差値が上がり、難易度としては一般個別方式との差が開いた結果となった。

センター方式は、前期日程の 3 科、4 科、6 科、そして後期日程というパターンがある。それぞれの合格者偏差値は 3 科が 69.3 (2016 年度 68.4)、4 科が 70.0 (2016 年度 70.6)、6 科が 72.3 (前年度 69.6)、後期日程 (4 科) が 65.5 (前年度 63.4) となっている。上の表からも 2017 年度はセンター 6 科目受験の志願者が激増 (4 科目) している。合格者もその分増え倍率は 1.7 ポイントの上昇に留まっているが、合格者平均偏差値は 2.7 ポイント上がり 72 を超える厳しい入試となった。ただしこの区分は国公立受験者の抑えとなっている部分で歩留まりも低いため、一般受験生の大勢に影響は大きくなかったと考えられる。明治・商を高い志望順位に設定する生徒はセンター試験の後期日程が倍率 2.5 倍、合格者偏差値 65.5 と 1 つの狙い目として検討したい。

過去3年間の合格者の最低得点(%) : 一般個別、全学部

	2017年度入試		2016年度入試		2015年度入試	
	一般	全学部	一般	全学部	一般	全学部
商	72.0	74.2	62.3	73.3	68.9	73.6

\* 合計の倍率は全体受験者÷全体合格者の計算式で算出

\* 複数学科ある学部は、2017年度の結果において中間学科の数値を採用

文＝日本文、政治経済＝経済、総合数理＝先進メディアサイエンス、理工＝応用化、  
農＝食料環境政策

英語の難易度の高かった2016年度は個別試験の得点率も6割前半と低くなっていたが、全体的には個別試験、全学部試験共に英語は難易度の高い試験問題ではないので、上の最低得点率から判断しても、最低でも7割以上を死守することを目標にし、できれば7割後半～8割に届くようにしたい。

## B 英語試験の概況

以下は 2013 年度から 2017 年度までの大問の構成であるが、出題傾向は年度によって異なり、全く同じ形式のものが連続して出ていない。同じ出題構成を続けないということは明治大学商学部のポリシーなのだろうか。2016 年度と 2017 年度は発音問題を除いてほぼ同じ出題構成に見えるが、詳しく見てみると 2016 年度は物語でやや読みやすいとは言え、1700 語超のものが出され、設問のレベルもやや難しく感じた。

	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年	2013 年
1	文法・表現	文法語法・発音	長文	長文	長文
2	会話	会話	長文	長文	長文
3	長文	長文	間違い探し		長文
4	長文	長文			

2015 年度から形式は異なるものの文法問題が入り、2016 年度から会話問題が導入され、2017 年度もその傾向を踏襲していることを考えると、大問の構成としては 2017 年度のものを今後のベースとして考えてよいであろう。

さらに、大問構成よりも大きな影響を持つのが長文の語数である。以下の表は過去 5 年の長文問題の語数をまとめたものであるが、2015 年度、2017 年度は 2 題合計で 1800 語程度であるにもかかわらず、2016 年度は 2690 語である。1 年で 900 語も差があるのだから、2016 年度の受験生は驚いたことであろう。この年は会話問題や文法語法問題の新規導入もあり、受験生は「え？赤本と違う。何？やばい、長文まだまだあるんだけど」と思いながらペンを進めていったことが想像に難くない。しかも、そのうちの 1 つはなんと 1750 語というオバケ長文である（私は 1500 語を大幅に超える超長文を「オバケ長文」と呼んでいる）。物語で分かりやすいとは言え、長文が 5 ページに渡って続き、私でも **First Reading** で 10 分以上かかるほどのものだった。900 語違えば、単純に **First Reading** だけでも 9 分変わるわけで、この長文量の変化は時間配分に直接的かつ大きく影響してくる。

	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年	2013 年
長文 1	860 語	940 語	1100 語	770 語	840 語
長文 2	950 語	1750 語	700 語	1430 語	850 語
長文 3					690 語
合計	1810 語	2690 語	1800 語	2200 語	2380 語

では、どれぐらいの想定をしておけば良いのか。まず合計語数としては、**MARCH** の長文で 2000 語を超えることは当たり前であり、2500 語を超える場合も珍しくなければ、3000 語に到達する場合もある。そう考えると 2015、17 年度はむしろ「短すぎた」と評価するべきだろう。ただし、1500 語を超えるオバケ長文は **MARCH** どころか早慶でも稀で、2016 年度の 1750 語というのは例外的と考えてよい。ただ、それ以外の長文を見ても、800 語、900 語という比較的長めの文は当たり前のように出てくると思ったほうが良いし、1000 語超える問題も出題される可能性がある。これまでの設問傾向が続くとしたら、1 つの長文に対する設問の数も多いため、ある程度長さがないと作問側も出題に苦勞するだろうから、片方もしくは両方の長文が 1000 語を超える可能性も否めない。

レベルの評価は長文の長さによるので一概には言い切れないが、2015 年度、2017 年度の問題であれば **MARCH** としては標準と考えてよいだろう。長文はセンターより長く、やや難易度の高いものにな

っているのが最初の印象だが、内容、構文的にも複雑なものではなくストレートな読解力を試すものが多い。時間は 80 分であるが、長文 1 つあたり最大 30 分使えると思えば、相当余裕がある。文法語法問題もセンター+α ぐらいの範囲で解けるものが多い 2016 年度は長文の長さ（そしてそれによる時間配分のありかた）が最大の原因であるが、それだけでなく選択肢の紛らわしさや文法語法と会話問題においても他の年よりは 1 段階難しいものになっていると感じた。レベルのイメージとしては、2016 年度のものをベースにしておくといいだろう。

単語や熟語を問われる問題があるが、特に文法語法の部分は超基礎と言えるものも多い。単語、熟語ともにターゲットレベルをしっかりと覚えよう。

試験時間は 80 分。時間配分は語数の多い長文が出てくるリスクも考え、とりあえず 1 つの長文につき 25 分と設定し、文の長さに合わせて 35 分まで引き延ばす感じにしよう。1000 語以内のものは 25 分でやりきるようにしたい。2016 年度のように 1500 語を超えるものが出てきた場合は 35 分使うこともできるが、2 つの長文合計で最大 60 分程度におさめることを目標にしよう。

**【時間と難易度の目安】**

	内容・語数	時間	難度
1	文法・語法	7	A
2	会話	7	B
3	長文読解	25～35 (各長文)	B/C
4	長文読解		

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

大問 1

【2017年 大問 1】

問 1 空欄に入る最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) Will you give me a hand ( ) this campaign, Bill?

- 1 by
- 2 on
- 3 to
- 4 with

(2) ( ) my son had a fever this morning, he went to Meiji to take the entrance exam. He said he didn't want to miss the chance.

- 1 Although
- 2 However
- 3 If
- 4 In spite

問 2 各文の内容を言い換えたものとして最も適切なものを1つ選び、その番号を解答用紙にマークしなさい。

(1) Having been brought up in a tropical country, he is not used to the cold.

- 1 As he was brought to the hot nation, he needs an air conditioner all the time.
- 2 Because he grew up in the tropics, he is sensitive to the cold weather.
- 3 The hot weather makes him catch colds easily.
- 4 There is little use for cold weather in the tropics.

(2) With a little more money, I could have bought that oil painting.

- 1 If the painting had been more expensive, I could have bought it.
- 2 If I hadn't been short of money, I could have completed the painting.
- 3 I was not able to buy the painting because I was short of money.
- 4 I had enough money to buy the painting on the spot.

**【形式】**

2017年度は文法語法の4択空所補充問題が13問、構文や熟語理解に基づいた文の解釈が3題出された。2016年度は文法語法問題が10問と発音問題が5問出題された。

**【分析・アプローチ・MAX感想】**

文法語法問題は基礎問題が多く、センターの準備ができていれば完全に対応できる。やや熟語単語などでややつまってしまうものがあったとしても落ち着いて前後の言葉から判断をしていけばよい。2017年度の意味解釈の問題も基本的な構文が出され、難なく次々と答えていきたいところだ。2016年度発音問題は珍しい出題であり、センター試験のものと大差ないとも言えるが、日本人の苦手とする母音が問われており、見た目以上に点数を落としてしまうところだろう。発音は分かりにくい、アクセントの有無などに影響されるため、合わせて判断していくことで正答率を上げられる。配点は150点満点中1つ2点と考えられる。

ここの基礎問題を簡単に落とすわけにはいかない。大半の受験生が8割を確保できる部分であり、できても差がつかない部分であるが、できなければ差をつけられてしまう部分である。基礎問題は確実にすべて取り、逆に差がつけられないようにしよう。

MAX 所有時間 4分。

【2017年 大問2】

〔Ⅱ〕 空欄に入る最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) Man: I don't understand what this means: "fair trade coffee."

Woman: Hmm. I think it means that people who live in poor countries should get proper market value for the coffee beans they grow.

Man: That's a great idea! But who determines what is the appropriate market value?

Woman: Good question. To be honest, if the price were determined by the taste of the coffee, then this cup should be ( ).

Man: You're right. It's horrible.

1 expensive

2 smaller

3 double

4 free

(2) Woman: I am really interested in changing my mobile phone. What kind are you using?

Man: Me? Well, it's a really small company. I don't think you have even heard of it.

Woman: And are you satisfied with your phone? It looks really cool! I have never seen a phone shaped like a triangle.

Man: Well, let me tell you something: ( ). Not only is it slow, but the keys often get stuck, and it's really difficult to put in your pocket.

Woman: Hmm. It does look rather painful . . .

1 appearances aren't everything

2 I love it

3 it's so popular

4 you should get one, too

**【形式】**

会話の中の空所を埋める問題。2016年度は3題、2017年度は5題。

**【分析・アプローチ・MAX感想】**

やや長めの会話が設定されている分、状況や文脈判断もしやすく、文の内容理解で困るということはないだろう。問われているものは会話表現ではなく、完全に文脈判断、内容理解と言える。会話にありがちな回りくどい言い回しや状況に合わせた発話が解答のターゲットになっていることが多く見受けられ、一見ストレートな返答が見当たらない場合がある。その際は、前後の流れをもう一度見直し、「この人は何を言いたいのか」という内容を外さずに、その状況にふさわしい選択肢を絞っていきたい。例えば、2017年度の(4)では30人を招待する大みそかのホームパーティが話題に上がっているが、「以前に大きなパーティで窓が壊れたり、近隣から苦情が寄せられた」という内容がある。したがって、“I hope that ( ) .”の中には「トラブルが起きないでほしいな、うまく行ってほしいな」というような内容が入り、“things don't get out of hand.”が正解となる。この選択肢を含めて、言い慣れない表現も多いが、「トラブルが起きない」ということを言い表せるのはどれかという意識で選択肢を絞っていく。読解や文脈の解釈という点で言えば単純な会話問題よりは難しさも感じるが、「聞き慣れない会話表現をしっているかどうか」を問われるものではないので、論理的に読み、考えることができれば点数をとれる箇所である。その意味からも、多少微妙な判断に迷うところはあっても大半の受験生は大きく落とすことはない。4点問題と考えられるが、目安は5問中4問、3問中なら2問を目標にしていこう。

MAX 所要時間 4分。



【2017年 大問3】

〔Ⅲ〕 次の英文を読み、設問に答えなさい。

Most people are in the pursuit of happiness. There are economists who think happiness is the best indicator of the health of a society. We know that money can make you happier, though after your basic needs are met, it doesn't make you that much happier. But one of the biggest questions is how to allocate our money, which is (for most of us) a limited resource.

There's a very logical assumption that most people make when spending their money: because a physical object will ( A ) longer, it will make us happier for a longer time than a one-off experience like a concert or vacation. According to recent research, it turns out that assumption is completely wrong.

"One of the enemies of happiness is adaptation," says Dr. Thomas Gilovich, a psychology professor at Cornell University who has been studying the question of money and happiness for over two decades. "We buy things to make us happy, and we succeed. But only for a while. New things are exciting to us at first, but then we adapt to them."

問1 空欄( A )～( D )には、以下の動詞のいずれかが入る。それぞれに最も適切なものを選び、必要な場合は文意が通るように語形を変えて、解答欄に1語で記しなさい。

hike                      last                      rate                      steer

問2 下線部(1)～(7)について、最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) この counterintuitive とは

- 1 foolishly expected by anyone
- 2 going against common sense
- 3 the opposite of something unreasonable
- 4 the reason your mind goes blank

問 3 以下の各群について、本文の内容と一致するものを1つ選び、その番号をマークしなさい。

**A群**

- 1 According to Dr. Gilovich, all material purchases are equally unsatisfactory.
- 2 Dr. Gilovich's research shows that it is better to have negative experiences than positive ones.
- 3 People's assessments of negative experiences can change over time.
- 4 The study found that people with enough experiences no longer need money.

**B群**

- 1 Dr. Gilovich has studied the relationship between happiness and money for at least twenty years.
- 2 Happiness with material goods can only come after gaining years of buying experience.
- 3 In the author's opinion, people with enough experiences have no reason to fly first class.
- 4 The study concludes that people are generally willing to pay more money for positive experiences.

**【形式】**

長文は700～1000語程度のものが平均的だが、中には1500語程度、それ以上の長文が出されたこともある。設問はおおむね固定されており、問1は空所補充（文に合わせて形を変えるもの）が4つ、問2は下線部の内容判断が6～7つ、問3は全体の内容理解を問う問題が2つ出される。2015年度は4択式の空所補充が1つの長文につき6～11個出されていたが、2016年以降はその形式は見られていない。

**【分析】**

文章のレベルはMARCHとしては標準的と言える。トピックや話の流れはつかみやすいものが多いが、細かい部分、特に問になっている下線部の意味解釈などはひねりが入っているものもある。また前述のとおり1,500語を超える長文もあるが、長くなっても集中力を切らさずにポイントを押さえて読んでいきたい。

2016年度の文は物語であり、長さの割には読みやすく、パラグラフごとの概要も比較的容易に取れ

る。そうは言っても延々と 5 ページにわたって文章が続き、私の **First Reading** が 12 分だったことを考えると、一般の受験生は最低でも同等の時間、長いと 15 分以上も辛抱強く **First Reading** をしなくてはならない。確かに 2016 年度の 1750 語は例外的だが、他の年をみても 1000 語前後の問題は 3 ページを超えて続くため、集中力とポイントを抑える力が必須である。設問は半分以上はストレートに答えられるものだが、中には紛らわしいものがあり、それらは時間の許す限り **Second Reading** で確認したい。一方で、全く方向性のずれた選択肢も中にあり、それらは初見で時間をかけずに正確にはじいていきたい。

年度別にみると、2016 年度は長文の長さだけでなく、内容や選択肢としても難しめに設定されており、得点率が下がったとみられる。一方、17 年度は長さ、内容、選択肢、全ての面において前年度より易しく、取りやすかったであろう。2016 年度の長文の長さは適切ではないかもしれないが、レベル感としては 2016 年度の問題を基準にしておくことが妥当である。また 1500 語を超えるお化け長文でそれなりに読みやすいと言えるものは少ないため、**MARCH** レベルでお化け長文の感覚をつかむためには 1 度 2016 年度の問題をやっておくことも良いだろう（早慶の一部の学部でお化け長文が出てくるが、どうしても長さに比例して文章が難解になる傾向がある）。

### 【アプローチ】

700 語程度の文章であれば、なんとなくの理解で **First Reading** を進めていっても **Second Reading** で何とかなるが、1000 語を超えるものになると「よくわからない」と感じながらと読み進めていくのは時間ももったいないし、その後の問題を効率よく解くこともできない。700~1000 語以内（問題冊子 3 ページ程度）なら 25 分、1000~1300 語（4 ページ程度）なら 30 分、1300 語以上（5 ページ）なら 35 分+アルファと大体の時間を決めておき、**First Reading** をその 4 割~半分で終わらせるように心がける。文章が長くても設問の数はあまり変わらないので、本文の見直しに時間がかかるとしても **Second Reading** はなるべく 10~15 分以内という同じ時間で進められるようにしたい。

大問別に見ると、大問 1 の空所補充は与えられている 4 つの単語がどの空欄に入るのかを見極めるところから始まるが、同じ語が 1 度しか使えないため、普通の 4 択（空欄ごとに 4 択が設定されているもの）よりは消去法が圧倒的に効果を発揮し、やりやすい。4 つの空欄の中で最低でも 2 つは自信をもってあてはめられる部分があると思うので、そこを先に入れ、残りは文脈で判断したい。必要に応じて語の形を変えなくてはいけないが、完了の **have**、助動詞、受け身と進行形の **be** 動詞、前置詞などが分かりやすく示されており、それらをヒントとしていこう。2015 年度の問題で **seek** を受け身の過去分詞に直すものがあるなど（正解 **sought**）、解答しづらいものもあるが、基本的な内容判断と文法知識で解答できる部分である。むしろ 3 単現の **s** や過去分詞の形、スペルを間違えないようにしたい。大問 2 の下線部の問題は分かりづらい表現や本文理解のメインポイントに下線が施されているものが多く、また選択肢も紛らわしいものもあるので、問題個所の前後をじっくり読み直して、文脈、言葉のニュアンスの両面から正解を判断していこう。また単語の意味を文脈から判断する問題があるが、文脈だけだとなかなか判断が付きづらい問題があり、単語力である程度カバーしたい。最低でも **Target 1900** 範囲のもの、できればそれ以上のものも過去問演習で幅を広げていけるようにしよう。大問 3 は文章全体の内容判断なので、分量によっては全てを本文に照らして確認する時間がない。確実に違うものを **First Reading** の理解ではじき、怪しいものを中心に精査していこう。

問 1、2 はそれぞれ 4 点問題と考えられる。スピード感も重要だが、問題数が多くなく、1 つ 1 つの

ロスが響いてくる。大問 3 は 6 点程度の配点が推測され、2 つともここで落とすことは避けたい。

**【MAX 感想】**

2015 年度～2017 年度の 3 年分を解いたが、空所補充の問題は思った以上に難しさを感じなかったが、下線部の問題で少し落としてしまうところもあった。解いているときには気づかなかったけれども見直してみると意外と難しい設問だったな、と思うものもある。問題は総じて良問だと思うものが多く、難易度的にも MARCH 志願者にとっては程よいチャレンジレベルだろうと感じた。

私の所有時間は 700～1100 語程度で First Reading で 6～9 分、全体としてはプラス 7～10 分といったところか。2016 年度の 1750 語の問題は First Reading 12 分、全体 24 分だった。